

GOD WITH US

Part 10: EARLY LETTERS

Message 24 – Colossians

The Supremacy of Christ

Colossians 1, 2

December 6, 2020

神はわれらと共に

パート10：初期の手紙

第24メッセージ - コロサイ人への手紙

キリストの至上権

コロサイ人への手紙第1, 2章

はじめに

コロサイは、パウロが書簡を宛てた都市の中で一番小さな町でした。『コロサイの教会には、主にギリシャ人とフリギア人と、異常に人口が多かったユダヤ人がいました。』（コロサイ人、アーヴィング・L・ジェンセン著、前書きより）。この教会は、パウロが植えたものではなく、実際、訪れたことさえありませんでした。パウロと同じ、しもべ、エパfrasがこの教会を植えました（コロサイ人1:7,8）。それでもパウロの最も重要な書簡の一つが小さい遠方のこの教会に宛てられました。なぜだと思われませんか？コロサイの教会の偽教師たちがキリスト教について誤った見方を教えているという不穏な知らせをエパfrasが持ってパウロを訪れたからです。コロサイ人への手紙の最初の2章で、パウロが詳しく述べたキリストの至上権に基

づいて構築された信仰ではなく、コロサイの偽教師たちは、イエス中心を打ち壊す教えを広めていました（キリストの内こそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。2:9）。偽教師たちにとって、イエス様は、宗教的パズルの「一片」として提示してはいたものの、主要で唯一の一片ではありませんでした。イエスは、単なる高い地位の御使い、ある種の仲介者、秘密の知識の授与者、または預言者でした。「イエス・キリストの栄光に信頼を置くことを妨げさせたのは、神と救いの教義でした」（C.F.D.ムール）。パウロは、キリストが神であり、創造主であり、唯一の贖い主であり、唯一の救いの道であることを強調することによって、これらの異端と戦いました。A.T.ロバートソンは、コロサイ人への手紙を「パウロによるキリストの全身像」と描写しています。コロサイ人への手紙は、今日の世界にも非常に深く関連しています。それは宗教的義務の優位を強調しながら、イエス・キリストのご性質と働きを最小限に抑える傾向があるからです。この手紙から学べるように、イエス・キリストが至上権ではないキリスト教など存在しません。

初めの挨拶とことば：1:1-12

パウロは、いつもの挨拶の後、キリストへの誠実な信仰、お互いへの愛、将来の報いに対する永続的な希望について話

すことによって、コロサイ教会を励まします。この信仰、希望、愛の三セットはパウロのお気に入りでした。

1:3 わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している。**1:4** これは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対していただいているあなたがたの愛とを、耳にしたからである。**1:5** この愛は、あなたがたのために天にたくわえられている望みに基くものであり、その望みについては、あなたがたはすでに、あなたがたのところまで伝えられた福音の真理の言葉によって聞いている。**1:6** そして、この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長しているのである。**1:7** あなたがたはこの福音を、わたしたちと同じ僕である、愛するエペラスから学んだのであった。彼はあなたがたのためのキリストの忠実な奉仕者であった。**1:8** あなたがたが御霊によっていただいている愛を、わたしたちに知らせてくれたのである。(コロサイ人への手紙1:3-8)

福音(良い知らせ)は、コロサイの教会の人々に喜んで受け入れられ、その誠実さの証拠は、救いの日から彼らの人生から湧き出てきた果実でした。エパラスがパウロのところに、コロサイから教会の状態を報告するためにやって来ました。コロサイの信徒たちは、御霊により、心から愛していると伝

えます(1:8)。それに対しパウロは、彼らのために何を祈って来たかを伝えることによって、彼らへの愛を伝えます。

1:9 そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、**1:10** 主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。**1:11** 更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、**1:12** 光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。

(コロサイ人1:9-12)

パウロの祈りを読むことで、パウロにとって何が重要であったかを知ることができます。

- 霊的な知恵と理解力で満たされるように。
- 主にかなった方法で歩むことができるように。
- 人生のあらゆる点で主に喜ばれるように。
- あらゆる善行の内に実を結ぶように。
- 神を知る知識が増し加えられるように。
- 御霊の力で強められるように。

-不動と我慢強い忍耐力が与えられるように。
-神に喜びをもって感謝をささげることができるように。

パウロの手紙には定期的に人々のための祈りが含まれています。

これは、パウロの私生活と宣教において、祈りがいかに重要であったかを示しています。またパウロがどのようなことを祈ったかも示します。

パウロは、信者たちにとって（私たちのためにも）祈りの模範でした。私たちがイエス様への信仰で成長している人々（私たち自身を含む）の世話をしなければならないように、パウロは、コロサイ教会を深く気かけました。何を祈るべきか迷われておられるなら、パウロの祈りのリストを取り入れてみてください。（このような）「使徒的祈り」は、私たち自身も含め、他の人々の霊的成長のために、それぞれの祈りを導くために与えられています。このような祈り方に慣れるまで、書き記して、ガイドにされるのもよいでしょう。リストには、人々の物質的、肉体的必要について何も記されていないことに注意してください（これらはしばしば私たちの祈りの主な焦点です）。むしろ、パウロは、キリストを知り、神の召しにかなう方法で歩むようになど、人々の霊的健康に焦点を当てています。コロサイ人第4章3、4節は、パウロが自分の宣教のための祈りを求めています。他の手紙の中で、個人的な必要のための祈りを

求める箇所もありますが、常に人々がイエス・キリストのご性質を知るようにという祈りをパウロは強調してきました。

キリストの至上権：1：13-20

ここでパウロは、コロサイ教会での誤った教えという緊急の対処すべき問題について乗り出します。キリストの至上権に焦点を当て、次に理解すべきイエス様について重要な10の事柄を述べています。

1. 御子は、見えない神のかたちであり．．．（1：15a）。

ここでの「かたち」という言葉は、「写し」または「複製」を意味します。イエス・キリストを見るとき、神の本質の完全な現れを見ているとパウロは言っています。イエス・キリストは、神の純粋な反映です。ヘブル書第1章に、似たような箇所があります。

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であつて、．．．（ヘブル人への手紙1：3）。

イエス様ご自身も似たことを言われました：

14:8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。 **14:9** イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないの

か。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。(ヨハネ14:8, 9)

コロサイ教会の偽教師たちは、イエス様を降格させました。一方、パウロは、イエス様を高めて言います『あなたがイエスを見ると、あなたは神を見ているのです!』と。

2. すべてのものより先に生まれた方 (1:15b)。

「長子」とは、「最高の地位」を意味する比喩です。古代の文化では、長子は特別な権利と特権を持っていました。長子は、父親の相続人であり、代表でした。通常、父親の世帯の管理は長男に委ねられました。「長子」という称号は、特定の人物に属する特権的な地位を説明するための比喩として用いられました。たとえば、旧約聖書の中で、神はダビデ王について、「89:27 わたしはまた彼をわが初子とし、地の王たちのうちの最も高い者とする。」(詩篇 89:27) と言われました。ダビデ王は、王たちの中でも特異でした。ダビデ王は神の目には「最高位」であり、「長子」でした。別の箇所では、「長子」という称号がイスラエル国民全体を表すものとして用いられています。4:22 あなたはパロに言いなさい、
『主はこう仰せられる。イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。(出エジプト記第4章22節)。イスラエルは、神の目に国々の中で特権的で卓越した存在でした。

このようにパウロは、イエス様は、あらゆる被造物に対して非常に特別な地位にあると言っています。偽教師が示唆していたような、被造物の一部ではありません。イエス様は、あらゆる被造物の管理者です。すべての被造物にとって、父なる神を代表します。イエス様は、あらゆる被造物に対して卓越しておられます。次の節は、「すべての被造物の長子」という称号を補足しています。

1:16 万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子によって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。

(コロサイ人1:16)

これはコロサイ人の誤りに対する真の挑戦でした。偽教師たちは、イエス様を被造物の一部にしましたが、パウロはそれを否定し、イエス様は創造主ですと宣言します。使徒ヨハネは、非常によく似た言葉を用いて、イエス様が創造主である神として説明しています。

1:3 すべてのものは、これによってできた。できたものうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

(ヨハネ1:3)

パウロはコロサイ教会に、キリスト教の中心的な真理を思い起こさせます：あなたの贖い主は、あなたの創造主に他なりません。誰にもこの現実を奪わせてはなりません！

4. 万物は御子にあって造られたからです (1:16b)。

万物がキリスト・イエスによって創造されただけでなく、万物は、キリスト・イエスのために存在します。キリストはあらゆる被造物を相続されるお方です。「キリスト」という言葉は、この手紙のパウロの弁護の中で30回用いられていることに注意しましょう。「キリスト」は、「油そそがれた者」を意味するギリシャ語の称号であり、ユダヤ人の称号「メシア」を意味するのと同じです。偽教師たちがイエス(人間)は被造物の一部であると教えている傍ら、パウロは、あらゆる被造物は、救世主であり、神の御子である、イエス様のために造られたと反論しました！ヘブル人への手紙にも同じことが書かれています。

1:2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。(ヘブル人1:2)

これはキリストによるあらゆるものの所有権が強調されているという点で、「長子」の考えと非常に似ています。父なる神は、御子なるキリストに、全てをお与えになりました。

5. 御子は万物よりも先に存在し... (1:17a)

時間的にも地位的にも、イエス・キリストは、万物の「前」におられます。ここでは、パウロが時間的側面、つまり、キリストの先在を強調している可能性があります。イエス様ご自身が、神の名であるヤハウエ(わたしはある)という名を用いられて、ご自身の永遠の存在を示された結果、ユダヤ人の宗教指導者たちは、神への冒とくとして、イエス様を石打ちにしようとしてしました：

8:56 あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいた。そしてそれを見て喜んだ」。 **8:57** そこでユダヤ人たちはイエスに言った、「あなたはまだ五十にもならないのに、アブラハムを見たのか」。 **8:58** イエスは彼らに言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである」。 **8:59** そこで彼らは石をとって、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

(ヨハネ8:56-59)

6. 万物は御子にあって成り立っています。(1:17b)

イエス・キリストは宇宙の創造主、相続されたお方、保持されるお方です。イエス様は、すべてを保持される「宇宙の接着剤」のような存在です。イエス様がおられなければ、宇

宙は崩壊し、消滅するでしょう。ヘブル人への手紙も同様に言っています。

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。...
(ヘブル人1:3)

これは驚くべき考えです。イエス様は、その力強いみ言によって、人々が彼に立ち向かうために立つ、その基盤をも保持しておられます。

ユダがイエス様を裏切った夜、ゲッセマネの園で、イエスを捕えるためにやってきたローマ兵たちは、イエス様が「わたしが、それである」と言われた言葉を聞いたとき、うしろに引きさがついて地に倒れました(ヨハネ18:6)。「わたしはある」という、神がモーセに語られたのと同じ「わたしはある」(出エジプト記3:14)ことばをイエス様が発せられたことによって強力な衝撃を受けました。以前も触れましたが、「よくよくあなたがたに言うておく。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである」(ヨハネ8:58)イエス様がユダヤ人との議論を終わらせる際に宣言されたのと同じ言葉、「アブラハムが生まれる前に、私はいます」(ヨハネ8:58)。神の子であるイエス様が人間の形で地上におられた間、イエス様が放棄されることを選ばれた神の強力な特質の現れを垣間見ます(ピリピ2:5-11) -イエス様の神聖な力- 私たち人間が歩

むように歩まれることによって、私たちの真の救い主となられ、仲介者となることが可能となりました。

外の世界に出て見て、次のことを考えてみてください。イエス様は、今この瞬間も、すべてを保持しておられるお方です。私たちが吸い込む次の息さえもイエス様によって与えられます。ここ地球上においての私たちの存在が、細かく複雑にバランスの取れた力によって決定され、保持されているという事実も、イエス様によって私たちに与えられています。私たちが大気圏の中に生きているという事実も、地球と太陽の間の距離が、私たちが凍ったり燃え尽きたりしないために絶妙な距離が保たれているという事実も、イエス様によって与えられています。これらはすべて、説明できないが魅力的な偶然であると主張する人もいますが、聖書は、これらすべてが神の御子の力強いみ言によって創造され、保持された神の賜物であると主張します。私たちが呼吸に必要な息を受けて一日を継続するとき、すべての創造主であり保持されるお方であるイエス・キリストに感謝しましょう。イエス・キリストは、そのすべての創造主、保持されるお方、そして相続人です！

7. 「御子は、そのからだである教会のかしらです。」(1:18a)。イエスの重要性を最小限に抑えようとするのは、「体」にとっての「頭」の重要性を最小限に抑えようとする

ようなもので、不可能です！体は、腕、足、片方の腎臓、目等の部分がなくなっても生残は可能でしょう。しかし頭なしでは生存不可能です。実際、これはイエス・キリストがすべての真のクリスチャン教会の真の指導者、案内者、意思決定者として認められるべきお方であることを意味します。イエス様が真に頭であるならば、その体は他の誰でもなく、イエス様が望まれることを行うべきです。真のクリスチャン教会では、その体全体が頭であるキリストの前で謙虚に頭を下げ、キリストによって促されます。

8. それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。（コロサイ人1：18b）

パウロは「長子」という称号を、名誉、地位、卓越性と表す称号として用いたことがわかりました。ここでは、パウロがその称号を「死からの長子」というフレーズで再び用います。これはイエス様ご自身の死に対する勝利と復活の効力によって、イエス様は死後の世界の領域を完全に支配しておられることを意味します。イエス様は復活をも支配されます。それは、永遠のいのちに復活するすべての人々の中で、イエス様が先達であることを意味します。イエス様は死に対する勝利の先駆者です。イエス様ご自身が復活に対する彼の権威について語られています：

5:25 よくよくあなたがたに言うておく。死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る。今すでにきている。そして聞く人は生きるであろう。**5:26** それは、父がご自分のうちに生命をお持ちになっていると同様に、子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになったからである。

（ヨハネ5：25，26）

父は息子に復活を支配させられました。復活の日、死者を生き返らせるのは神の子、イエスです。羊と山羊をより分け裁かれるのはイエス様です（マタイ25章）。イエス様は復活のいのちの領域の長子ということです。

9. 神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、（コロサイ人1：19）

「すべての満ちみちた徳（ご性質）」が何を意味するかを理解するために、コロサイ人第1章19節を第2章9節と比較する必要があります。- **2:9** キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており．．．（コロサイ人2：9）。キリストの神性（キリストが神であるということ）について疑いがあるなら、これらの箇所によって、すべての疑いは晴れるはずで、すなわち教会の歴史を通して、キリストの神性が主流の正統派のキリスト教の教会の中心的な特徴であったことも不思議ではありません。

10. そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

1:21 あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。1:22 しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。

(コロサイ人1：20－22)

キリストの至上権と神性がそれほど重要であるのはなぜでしょうか？それは神との和解がすべての人に可能となったのは、キリストを通してであるからです。キリストが十字架上で流された血を通して、キリストの肉体の破壊を通して、イエス様には失われた罪人を神との関係に戻すことができになり、罪びとたちを父の前で「聖なる、非のない、お咎めない」者として提示して下さることができます。最後の行でキリストのご性質とキリストの御業との間の本質的なつながりを見ることができます。

上記の箇所(1:13-20)は、イエス様の見方において、どのように影響しましたか？イエス様の見方を再確認されましたか？正されましたか？キリストのご栄光について改めて不思議に思われたでしょうか、それとも今日も含めて、パウロの

時代、多くの人々が格闘しているように、イエスはただの「人」だと思われたのでしょうか？イエス様への崇拜、感謝、賛美を呼び起こしたのでしょうか？三位一体の二番目のお方、イエス・キリスト「御子なる神」の至上権とご栄光をこれほど力強く明確に強調している聖書の箇所はないと思います。今週、この箇所について熟考してください。急いで通過しないでください。暗唱するように促されるかもしれません。これはキリストのご性質に関する決定的な箇所です。イエス様の見方をただ一度定義しましょう。

パウロ、与えられた宣教を喜ぶ：1：23-29

この部分はエペソ人への手紙第3章とよく似ており、異邦人へ福音を伝える者として召されたパウロは、それを特権的であると表現しました。ここで、コロサイ教会に宛てても同様の言葉を記して、良い知らせを広めることの究極の目標について覚書を記して終わります：

1:28 わたしたちはこのキリストを宣べ伝え、知恵をつくしてすべての人を訓戒し、また、すべての人を教えている。それは、彼らがキリストにあって全き者として立つようになるためである。1:29 わたしはこのために、わたしのうちに力強く働いておられるかたの力により、苦闘しながら努力しているのである。(コロサイ人1：28, 29)

パウロは人々がイエス様を受け入れて神の子になるのを助けるためだけでなく、人々がキリストの中で成熟するのを助けるために努力しました。まさにそれこそがこの手紙の動機でした。コロサイ教会は偽りの教師のために彼らの霊的な成長が妨げられていました。したがって、この手紙は、彼らが霊的な成長過程を取り戻すのを助けることを目的としていました。パウロはこの手紙の中で、キリストを宣言し、すべての人にキリストを主として高め、その交わりを続けて歩むように忠告していました。

キリストの内に成熟する：2：1-7

何よりもパウロは、信者がキリストにある真の知恵によって成長することを一番に願っていました。「**2:3** キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。」

(コロサイ人**2：3**)。祈りと弟子としてのパウロの大きな葛藤は、人々が霊的成熟に向かって団結して成長することでした。

2:1 わたしが、あなたがたとラオデキヤにいる人たちのため、また、直接にはまだ会ったことのない人々のために、どんなに苦闘しているか、わかってもらいたい。**2:2** それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためであ

る。**2:3** キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。**2:4** わたしがこう言うのは、あなたがたが、だれにも巧みな言葉で迷わされることのないためである。**2:5** たとい、わたしは肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたと一緒にいて、あなたがたの秩序正しい様子とキリストに対するあなたがたの強固な信仰とを見て、喜んでい

(コロサイ人**2：1－5**)

当時の誤った教えは、ある種の秘密の知識の思想の影響を受けた人間の考えに根差していました。たとえば、グノーシス主義(ギリシャ語のグノーシス=知識に基づく)は、霊的仲介者によって明らかにされた秘密の知識の思想と、それらの教えから生まれる規則や習慣の厳格な遵守(今日のカルトのような)による救済を強調しました。しかしパウロは、すべての真の知恵と知識は、キリストの内にあり、それらはすべて、キリストにある人々に啓示されていることを理解してもらいたいと願いました。イエス・キリストとその教えを知るようになればなるほど、人生を導く神の真の知識で満たされるようになります。したがってパウロは、コロサイ教会に、外から入ってきた偽りの知恵や教えに惑わされて信頼するのではなく、キリストへの信仰によって歩み続けるように忠告しました。

2:6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。**2:7** また、彼に根ざし、

彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

(コロサイ人2：6，7)

キリストの真の見識はまやかしに対する治療：2：8-15

パウロは、これらの偽りの教えに捕らわれないように警告することから始めますが、間もなく再び移行して、イエス様の至上権とその贖いの御業のまったくの十全性について話します。

2:8 あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。**2:9** キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、**2:10** そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、**2:11** あなたがたはまた、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて、肉のからだを脱ぎ捨てたのである。**2:12** あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。**2:13** あなたがたは、先には罪の中にあり、かつ肉の割礼がないままで死んで

いた者であるが、神は、あなたがたをキリストと共に生かし、わたしたちのいっさいの罪をゆるして下さった。**2:14** 神は、わたしたちを責めて不利におとしいれる証書を、その規定もろともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。**2:15** そして、もろもろの支配と権威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。(コロサイ人2：8－15)

ここでは、キリストのご性質と御業について多くのことを学びます。ここにはエペソ人への手紙第2章との類似点があります。コロサイ教会の状況に照らして、いくつかの特異な強調もあります。

-神のすべての満ち満ちたご性質は、型をとって宿っている。

-信者たちはキリストにあって、それに『完全』にされている。これ以上何も必要ありません。

-私たちの心は「割礼」を受けており、新しくされた。

-私たちは、キリストと共に葬られ、共に復活しました。

-私たちは、キリストを知る前は、靈的に死んでいました。

-神は、私たちをキリストと共に生きる者としてくださった。

-キリストの死によって、私たちは完全に赦された。

-私たちの負債は取り消された。それらは十字架に釘付けられた。

-キリストが死なれ、復活されたとき、敵対する霊的な力に打ち勝たれた。

禁欲主義と御使い崇拝に対する警告：2：16-23

「秘密の知識」の思想とともに、誤った教えのキリスト教は自己否定（禁欲主義）を提唱しました。物質世界は悪と見なされていたので、真に「霊的」になるためには、物質との相互作用を避けなければなりません。さらに、彼らは天使のような仲介者（デミウルゴス、または神からの御使い）の崇拝を奨励しました。ここでの「安息日」への言及から、多くの学者たちは、コロサイ教会の偽教師がグノーシス主義、ユダヤ教、禁欲主義の側面を混同させて、キリストのご性質と御業に焦点を当てず、神の恵みへの道を歩むことの必要性に焦点を当てます。パウロにとって、これはコロサイの信者の真の賜物、つまりキリストのご性質と御業によって、私たちに与えられた神の恵みを「欺く」教えでした。

2:16 だから、あなたがたは、食物と飲み物につき、あるいは祭や新月や安息日などについて、だれにも批評されてはならない。**2:17** これらは、きたるべきものの影であって、その本体はキリストにある。**2:18** あなたがたは、わざとらしい謙

そんと天使礼拝とにおぼれている人々から、いろいろと悪評されてはならない。彼らは幻を見たことを重んじ、肉の思いによっていたずらに誇るだけで、**2:19** キリストなるかしらに、しっかりと着くことをしない。このかしらから出て、からだ全体は、節と節、筋と筋とによって強められ結び合わされ、神に育てられて成長していくのである。**2:20** もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの霊力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、**2:21** 「さわるな、味わうな、触れるな」などという規定に縛られているのか。**2:22** これらは皆、使えば尽きてしまうもの、人間の規定や教によっているものである。**2:23** これらのことは、ひとりよがりの礼拝とわざとらしい謙そんと、からだの苦行とをとともうので、知恵のあるしわざらしく見えるが、実は、ほしいままな肉欲を防ぐのに、なんの役にも立つものではない。（コロサイ人2：16－23）

今日、イエスが最小化され、神を見出だす方法として宗教的儀式が優先されているところはどこでも、コロサイ教会の誤りの二の舞を踏んでいます。また、私たちの文化のあらゆる側面で、「霊的な存在」や仲介者への献身が横行しています。人々は「内なる声」によって交わります。それらの「霊の手引き」を見つけます。多くは占星術師、占い師、または神秘主義の教師に相談します。神を喜ばせるためにあらゆる種類の人間の努力を必要とする複雑な宗教システムに専念す

る人々もいます。天使や他の霊的存在の崇拜は一般的で、実際、デトロイトには、サタンの崇拜に捧げられたアメリカで数少ない寺院が存在します！教会はキリストの至上権、ご性質と御業のまったくの十全性を宣言しなければなりません。これは常に、教会の真のメッセージであり、これからもそうあり続けます。私たちは、神の立場からキリストにおいて完全であるということです。また、実際の日常生活の中で、キリストに似たものと変える御霊の力を持っています。

4. 成熟度の追求に向けた重要な側面についても話し合いませんか。何が必要ですか？

ディスカッションの質問

1. 今日、コロサイ教会の異端が繰り返されているのをどこで／どのように見ましたか？ あなた自身の経験から具体的な例を挙げてください。
2. コロサイ人第1章13-20節から、以前は知らなかった、または理解していなかったキリストの至上権について何を学びましたか。
3. コロサイ教会には、霊的な成熟を追求することに大きな重点が置かれています。コロサイ人第1章9-12; 1:28,29; 2:1-7を復習しましょう。今日、霊的な成熟を追求するための障害について話し合ってください。